

前橋文学館の企画展で
さまざまな作品に触れて

前橋文学館 ☎027-235-8011



● 吉増剛造の世界楽しんで

特別企画展「フットノート-吉増剛造による吉増剛造による吉増剛造」を開催。日本最高峰の詩人とうたわれ、世界で活躍する吉増さん。現代詩の第一人者として、数多くの賞に輝き、後進にも多大な影響を与えています。評論や朗読のほか、写真や立体、映像などジャンルを越えて意欲的な創作にも取り組み、現代美術家や音楽家とのコラボレーションなどで多くのファンを魅了し続けています。本市では、萩原朔太郎賞の選考委員を長年務めました。

本展は、最果タヒさん、マーサ・ナカムラさん、松浦寿輝さん、三浦雅士さんらの詩人や評論家が選ぶ吉増さんの詩や各地の文学館長からの手紙、敬愛する萩原朔太郎など、吉増さんを取り巻くものや人へ、吉増さん自身が「コトバを贈る」展覧会です。また、シンガー・マリリアさんや映像作家・鈴木余位さんとのパフォーマンス、同館長・萩原朔美と共同制作の新作も展示します。

時 6月10日(土)~9月10日(日)(水曜休館)、9時~17時(入館は16時30分まで)

料 500円(6月10日(土)、7月7日(金)~9日(日)、9月3日(日)、障害者手帳などを持っている人と介助者1人、高校生以下は無料)

● 朔太郎の詩などを貼り絵で表現

作品展「ちぎらまりこのはりえぐらし」を開催。貼り絵作家のちぎらまりこさんは平成25年から本市を拠点に地元の風景や身近な動植物、人物などをモチーフにした貼り絵作品を制作。制作活動の傍ら、まちなかで自らの作品や古道具などを扱うショップyadorigiを主宰し、不定期でイベント出品やワークショップを開催しています。今回は従来の作品のほか、萩原朔太郎の詩作品からインスピレーションを得た新作を披露します。

時 6月17日(土)~9月3日(日)(水曜休館)、9時~17時(入館は16時30分まで)

● 関連イベント

① オープニング・パフォーマンス

時 6月10日(土)13時30分

出演者=吉増剛造さん

② ライブ・パフォーマンス

時 6月24日(土)14時

出演者=吉増剛造さん、シンガー・マリリアさん、映像作家・鈴木余位さん

持 当日有効の展示観覧券

申 同館へ

③ 学芸員による展示解説

時 7月8日(土)・8月19日(土)、14時

申 当日会場へ直接

④ ドキュメンタリー映画「眩暈 VERTIGO」上映

映像作家で詩人のジョナス・メカスと吉増剛造さんの交流を描いた作品。アフタートークなど詳しくは前橋シネマハウスホームページをご覧ください。

時 6月10日(土)~23日(金)

場 前橋シネマハウス

問 同館 ☎027-212-9127



● 関連イベント

① ワークショップ「貼り絵のうちわづくり」

時 8月19日(土)、10時・15時

対 一般、先着各20人

申 7月22日(土)9時から同館へ

アーツ前橋に新しい風
特別館長に南條 史生氏、館長に出原 均氏

前橋アーツ ☎027-230-1144

5月1日付で、前橋市文化芸術戦略顧問・南條史生氏がアーツ前橋特別館長を兼任、出原均氏が館長に就任しました。今後、同館の運営を担います。

館長 出原 均氏からのメッセージ

アーツ前橋に来館されたことのある皆さんでしたらご存じのように、写真は地下1階の展示室へと降りる階段です。ちょうど向こうから手前に降りてきます。大きな梁が目の前にドンとあって、不思議な雰囲気を感じ出しています。私は以前から別の館の学芸員としてこの美術館を訪れてきましたが、この階段を降りるときはいつも、ここから一つの美術の世界が繰り広げられるのだと思って、ワクワクしました(実は、1階も

展示室があって、別の展示会やイベントも開催されてきました)。このワクワク感を、今後は作る側として、ぜひ皆さんに味わっていただきたいと思います。残念ながら、まだ展覧会の内容をお伝えするまでには至っていません。今は特別館長の南條さんを中心にチーム全員で準備を進めています。時期が来たら、この紙面をはじめ、さまざまな媒体を使ってご紹介しますので、ぜひご来館ください。

特別館長 南條 史生

昭和47年慶應義塾大経済学部、昭和52年同大文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。国際交流基金などを経て平成18年森美術館館長、令和2年同館特別顧問、ヴェニスビエンナーレ日本館や台北ビエンナーレ、シンガポールビエンナーレ、茨城県北芸術祭などの国際展で総合ディレクターを歴任。



館長 出原 均

昭和61年広島大地域研究科修士課程修了。平成17年まで広島市現代美術館、平成19年から昨年まで兵庫県立美術館に勤務。広島市現代美術館学芸員・学芸係長、兵庫県立美術館学芸課長などを歴任。

